



ツキノワグマ出没注意報発出期間を延長します

～大切な命を守るため、引き続きご注意ください～

今週、県内でツキノワグマによる人身被害が発生し、引き続きツキノワグマの出没リスクが高い状況であることから注意報の発出を継続します。

注意報発出期間

令和6年 **11月14日(木)** まで

(現行 令和6年6月5日～8月31日)

区 域

県内全域 (変更なし)

クマの目撃状況等 (令和6年度)

- ・人身被害件数 8件 (うち里地4件) ※6月4(2)件、7月2(1)件、8月2(1)件 ()内は里地
- ・里地での目撃件数は、5～7月末時点では例年を上回る件数で推移
8月分は集計中 (平常年8月分 227件)

<注意報の発出基準> (次のいずれかが該当した場合に発出)

- ・前年又は前々年の堅果類の豊凶調査結果等から、子連れグマ又は親離れグマ等が多く出没することが予測される
- ・里地での目撃件数が月単位で平常年の1.5倍以上
- ・里地での目撃件数の週単位の伸び率(前週比)が、当該週の属する月単位の平常年の伸び率(前月比)の概ね1.5倍以上
- 里地での人身被害の発生

上記を基準に専門家の意見を踏まえ総合的に状況を判断して発出

県民の皆様へのお願い ～秋のクマに注意！～

○きのこ狩り等で山に入る際には、大きな音を出し、複数人で行動を！！

- ・秋にはきのこ狩りや観光等で人が山に入ることが想定されますが、クマも冬眠に向けエサを探し回ります。遭遇リスクを軽減させるため、クマ鈴等、大きな音の出るものを携行し、できるだけ複数人で行動してください。
- ・山に入った際は、持ち込んだ食べ物を放置せず、必ず持ち帰ってください。

○収穫しない不要な果樹(クリ、カキなど)は、あらかじめ伐採を！！

- ・果樹を放置してしまうとクマを寄せ付ける原因となるため、収穫しない果樹は伐採するなどの対策をお願いします。
- ・畑地や果樹園の電気柵設置、生ごみの適切な処理をお願いします。
クマが人間の食べ物の味を覚えると、その場所に何度も来たり、人に見つかることを恐れなくなるなど、人身事故の可能性が高まります。

※別紙資料もご参照ください

確かな暮らしを守り、
信州からゆたかな社会を創る

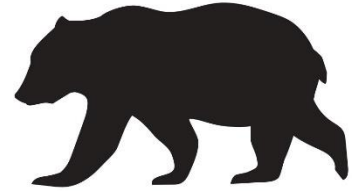
しあわせ信州創造プラン3.0
～大変革への挑戦「ゆたかな社会」を実現するために～

[長野県総合5か年計画推進中]

(問合せ先)

担 当 林務部 森林づくり推進課
鳥獣対策係 塚平、田淵
電 話 (直通) 026-235-7273
(代表) 026-232-0111 (内線) 3264
F A X 026-234-0330
電子メール choju@pref.nagano.lg.jp

秋のクマに注意！



○ 秋のクマは、冬眠に備えて脂肪を蓄えるため、エサを探し回ります

秋のクマは、冬眠に備えてブナ、ミズナラ、コナラ、クリなどのドングリ（堅果）をはじめ、ヤマブドウなど山にある食べ物を、昼も夜も探し回ります。
エサを求めて里地に出没し、カキやクリを食べることもあります。

○ 晩秋から、ツキノワグマは冬眠をはじめます

冬の間は食べ物がいないため、クマは 11月中旬頃から概ね12月末までに、冬眠をはじめます。倒木の根本、木の根と地面とのすき間、岩穴、樹洞などのほか、背丈の高い笹ヤブの中などで冬眠しますので、入山時は近寄らないようにしましょう。

※時期は目安です。地域やその年の気候により異なります。

クマと遭遇したり、里地に近づけたりしないよう下記に注意してください。

◇ クマ鈴、ラジオ、笛などを携帯する

クマは聴覚が人より優れており、人の存在を感じたクマは自ら逃げていきます。
クマ鈴、ラジオ、笛など音の出る物を鳴らして人の存在を知らせながら行動しましょう。

◇ 朝夕の行動は避け、複数人で行動する

朝夕はクマが活発に活動する時間帯です。この時間帯に山に入ることは避けましょう。
1人で行動せず、複数人で行動しましょう。

◇ 周囲を確認しながら移動する

釣りやキャンプで溪流沿いを移動する場合は、水の音でクマも人もお互いに気付かず、思わぬ距離まで接近してしまうことがあります。またキノコを採る森にはドングリを探すクマも現れます。キノコに夢中になりすぎないように周囲を確認しながら移動しましょう。

◇ 食べ物の匂いを漏らさないよう注意する

クマは人間よりはるかに鋭い嗅覚があります。キャンプや登山等で山に食べ物を持ち込む際は、匂いの漏れない袋などへの密閉や残った食材は放置せず持ち帰るなど、クマを誘引しない心がけが必要です。人の食べ物の味を覚えたクマは危険を冒しても出没を繰り返すようになります。

◆ 里地にクマを寄せ付けない対策を

秋には、カキやクリ、リンゴなど豊かな実りがありますが、果実を収穫せず放置してしまうとクマのエサとなりクマを誘引してしまいます。収穫しない果樹はあらかじめ伐採すること、畑や果樹園等の周囲には電気柵を設置すること、ヤブは刈り払って見通しを確保するなど、クマを寄せ付けない対策をとりましょう。また生ゴミもクマのエサとなります。一度餌付いてしまうとその場所に執着するようになり、クマが人を怖がらなくなるなど、人身事故の可能性が高まります。

長野県のツキノワグマ目撃及び人身被害の状況

長野県林務部森林づくり推進課

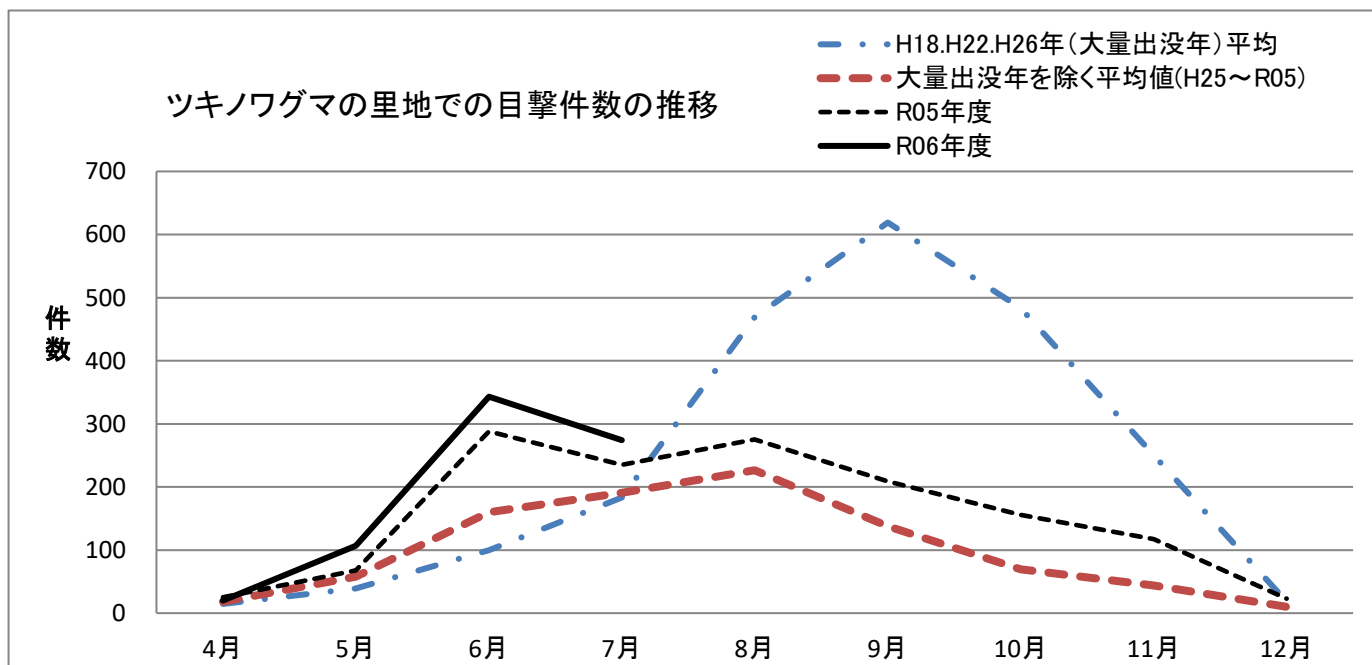
ツキノワグマの里地での目撃件数の推移

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月 - 3月	4-3月 計	人身被害 件(人)
H18	22	27	108	252	817	909	751	434	42	-	3,362	16(18)
H22	8	38	112	159	327	535	269	139	4	-	1,591	14(14)
H25	14	41	84	89	147	85	12	4	0	-	476	3(3)
H26	14	52	79	138	263	413	430	177	9	-	1,575	31(32)
H27	25	47	134	142	177	37	12	8	0	0	582	6(6)
H28	12	60	137	163	171	118	87	31	6	1	786	9(9)
H29	11	20	91	151	152	128	22	20	3	2	600	6(7)
H30	22	92	183	158	182	55	23	18	9	7	749	5(5)
R01	18	64	196	291	334	207	125	68	16	13	1,332	8(8)
R02	16	50	151	264	411	309	126	86	14	10	1,437	12(12)
R03	16	78	210	266	205	116	83	62	20	3	1,059	16(16)
R04	20	56	124	147	211	113	50	26	9	14	770	8(8)
R05	25	68	288	235	275	209	156	117	23	10	1,406	11(12)
R06	20	107	343	274							744	8(8)

※人身被害は林内での発生も含む。
網掛けのセルは大量出沒年。

凡例	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4-12月 累計	人身被害 件(人)
H18. H22. H26年 (大量出沒年) 平均	15	39	100	183	469	619	483	250	18	2,176	20.3(21.3)
大量出沒年を除く 平均値(H25~ R05)	18	58	160	191	227	138	70	44	10	914	8.4(8.6)
R05年度	25	68	288	235	275	209	156	117	23	1,396	11(12)
R06年度	20	107	343	274						744	8(8)

(8/27現在)



- ・平常年は、山のエサが少なくなり農作物が収穫を迎える8月が目撃件数のピークとなっている。
- ・大量出沒年では、8月から11月にかけて目撃件数が増加し、特に9月、10月が顕著に増加している。堅果類の豊凶の影響が推察される。